

発達障害だから気付くこと

長崎県 長崎市立片淵中学校 2年
山田 秀祐 (やまだ しゅうすけ)

僕は、ASD と ADHD を併せ持つ発達障害者です。自分の気持ちを伝えることや、衝動的な行動を抑えることが苦手で、今まで、周りと同染めるように自分や物事を客観的に見るための訓練をしてきました。

そのような生活を送っていく中で気付いたことがあります。発達障害は、見た目では障害かどうか分からない「見えない障害」故に、「見えない無意識の差別」を受けてしまう事があるのです。

今年の春、一枚の家庭教師のチラシを目にしました。そのチラシには「発達障害でも大丈夫！」とあったのですが、「発達障害でも」という言葉が僕はどうしても気になりました。「発達障害だから勉強が出来ない」と言われているように感じたのです。見る人が見れば気にもならないと思いますが、見る人によっては不快に感じる無意識の差別があることもまた事実です。

また、「仕事が『できる人』のモチベーションを下げる『困った人』の対処法」を紹介するビジネス啓発書が、炎上したことを知りました。その本には「ASD は異臭を放ってもお構い無し、ADHD は人の手柄横取り」と書かれていたり、発達障害者をサルやナマケモノのイラストで描いてあったりなど、障害者差別を助長する内容でした。筆者は、「差別的意図は全く無かった。」と主張していましたが、だからこそ僕は、このことが発達障害への誤解や無意識な偏見で差別に繋がってしまうということを、多くの人に理解してほしいと思います。「ここ十年で発達障害の認知は広がったが、正しい理解が広がっているか」というとそうではない。」これは発達障害の方のブログの一文なのですが、全くその通りだと思いますし、言われてみればむしろ間違っただけの情報や偏見が流れる事で、「無意識の差別」を加速させている気がします。「発達障害は治る」と思っている人もいますが、発達障害は治療や、環境を整えることによって改善できるものの、完全には治りません。これも「認知は広がっているが理解は広がっていない」事の証だと思います。

僕が発達障害で「差別」を受けた事があるか母に聞いてみた所、「その事を思い出すだけで涙が出てくる。」と言って話をしてくれました。僕が幼い頃は、特

性が今よりも強かったので、すぐ癩癢を起こしてしまったり手が出てしまったりして、周りとの馴染む事が難しく、母も辛い思いをすることが多かったそうです。その中でも、「どなたでも参加できます！！」となっている教室に参加させてもらえなかった事が特に辛かったそうです。母は、自分が付き添うなどの提案をしたそうなのですが、「前例がない」との理由で受け入れてもらえず、悔しくて悲しかったと話していました。でも母は、実際に迷惑をかけている事に対して申し訳ないという気持ちもあったので、仕方ないと思うしかなかったそうです。その話を聞いて、見えない差別によって辛い思いをするのは本人だけではないという事を知り、母の気持ちを想うと涙が出てきました。実際世の中には仕方なく受け入れられない事もあり、「受け入れられない＝差別」となる訳ではありませんが、「前例がない」と言い続けていても何も進歩しませんし、そのような事を続けていたから、発達障害者は今こうして差別を受ける事があるのではないかと思ったのです。

この様な事を当事者が言うと、迷惑をかけている事を正当化したいだけではないかと思われてしまうかもしれません。ただ、発達障害者も人間です。辛いことは辛いですし、不快な事は不快です。「発達障害だから」といってまともじゃないと決めつけられる、「発達障害だから」といって後ろ指を指される、相手にそのつもりがなくても知らず知らずのうちに差別されている、それらは、その人の心に深い傷をつけていくことになります。そもそも「障害＝普通ではない」訳ではありません。世界中の人口のほとんどが発達障害者だったら、きっと今健常者と言われている人たちは「普通ではない人」という立場になります。そして僕は、周りに迷惑をかけたい訳ではありません。発達障害だから勉強が出来ない訳でもないですし、発達障害だから意思疎通が出来ない訳でもありません。

「差別を無くそう」と言っても、差別をしている認識がなければ難しいと思います。ただ言えることは、発達障害者は「困った人」ではなく、「困っている人」です。発達障害だからこそ気付けることもあると思います。差別を無くすために正しい理解をもっと知ってもらいたいし、これから広めていきたいと思います。